

キャベツ

1 予報（8月）の内容

病害虫名	発生時期	発生量・感染量	予報の根拠
コナガ	－	並	(1) 7月中旬の巡回調査では、産卵は平年より少なく、幼虫は確認されなかった。(－) (2) 8月の気温は平年並か高い予報。(＋)
ヨトウガ	－	並 (非夏眠個体)	(1) 7月中旬の巡回調査では、産卵は確認されなかった。(－) (2) 8月の気温は平年並か高い予報。(＋)
ウワバ類	－	多	(1) 7月中旬の巡回調査では、発生圃場率は平年より高かった。(＋) (2) 8月の気温は平年並か高い予報。(＋)
モンシロチョウ	－	並	(1) 7月中旬の巡回調査では、発生圃場率は平年より高かった。(＋) (2) 幼虫の発生は、適期防除が行われている圃場では少なかった。(－) (3) 8月の気温は平年並か高い予報。(＋)

記号の説明 (++)：重要な多発要因、(+)：多発要因、(±)：並発要因、(－)：少発要因、(－)：重要な少発要因

2 防除のポイント

【共通事項】

(1) 定植時に薬剤処理をした場合でも、被害が見られる圃場では、効果の高い剤を選択し防除を実施する。

【コナガ】

(1) 育苗期に寄生が見られた場合は、茎葉散布を確実に行う。

(2) 定植時に薬剤処理を実施した場合でも、圃場をよく観察し、発生状況に応じて防除を実施する。

(3) 薬剤抵抗性個体の出現を回避するため、以下のことに留意する。

ア コナガは飛来性の害虫であり、ジアミド系殺虫剤の効果が高いコナガは本県に広く発生している可能性があるため、ジアミド系殺虫剤による防除を実施したにもかかわらず、コナガの幼虫が見られる場合には、他系統の薬剤により防除を実施する。

イ コナガは薬剤抵抗性が発達しやすいので、同一薬剤、同一系統の連用は避け、系統の異なる薬剤をローテーション使用する。また、ジアミド系殺虫剤の使用は1作型1回にとどめ、年間使用回数の削減に努める。

【ヨトウガ】

(1) 発育が進んだ幼虫は防除が困難となるため、圃場をよく観察し、卵塊やふ化幼虫が見られたらヨトウガに効果の高い薬剤を選択する。

(2) 第1世代成虫の産卵期間は長く、1卵塊当たりの卵数も多いため、圃場の様子を観察しながら、発生が長引くときは追加防除を行う。

【ウワバ類】

(1) コナガを中心とした防除を実施しても、ウワバ類の幼虫が葉裏等に残る事例がみられるため、圃場を注意深く観察し、被害が目立つ場合には、効果の高い薬剤で防除を実施する。

【モンシロチョウ】

(1) 成長した幼虫は食害量が多くなるので、若齢幼虫が目立つ場合には直ちに薬剤防除を実施する。